

自らの行動で創りあげる 「働きやすさ」と「働きがい」のある職場づくり

北海道における働き方改革は、皆さん一人ひとりの取組により、時間外在校等時間の状況が改善され、子どもたちと向き合う時間や自己成長の時間も増えました。しかし最近では、改善のスピードがゆるやかになるとともに、学校間で進捗に差が生じ、「取り組んでも効果を実感しにくい」という声もあります。この状況を踏まえ、今こそ次のステージへ進む時です。働き方改革は教職員の健康を守り、教育の質を高める重要な取組で、それぞれの行動が北海道全体の変化を促します。共に新たな一歩を踏み出しましょう。

学校における働き方改革北海道アクション・プラン（第3期）

「北海道アクション・プラン（第3期）」では、教職員が日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、人間性や創造性を高め、子どもたちに対してより効果的な教育活動を行えるよう、教職員の働き方を見直し、授業の質を向上させることを目的として、令和6年度（2024年度）からの3年間にわたる具体的な働き方改革の取り組みを示しています。

【目標】

○目標

教育職員の「時間外在校等時間」を、1か月で45時間、1年間で360時間以内とする。

○目指す姿

教員一人一人が、「変わってきた」と実感できる働き方改革の推進

○取組期間

令和6年度(2024年度)から
令和8年度(2026年度)までの3年間

改革を『自分事』に

『自走』するチーム

地域との『協働』

【重視する視点】

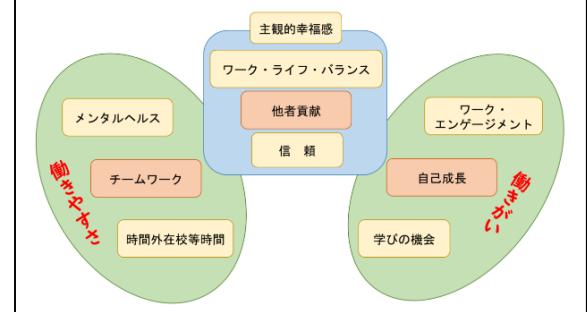
ワークライフバランスを意識した働き方を追求し、教職員のウェルビーイングの向上と、子どもたちの学びの伸長

未来につながる教育活動の実現を目指し、対話を通して、学び合い・支え合うチームを構築

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を図り、地域・保護者・教職員の参画と熟議でバランスある分担を実現

「働きやすさ」と「働きがい」

学校の職場づくりでは、健康や安全、福利厚生の充実、時間のゆとり、人間関係の良さといった「働きやすさ」と、自己成長の機会ややりがい、専門性の向上、適切な評価といった「働きがい」の両方が大切です。この両立こそが、教職員の働き方改革の大きなポイントです。



Webページの紹介

働き方改革係のWebページでは、「**働き方改革ポータルサイト**」を開設しています。ここでは、アクション・プランや働き方改革手引き「Road」の解説、働き方改革通信(マイレボ)、推進校などの実践事例紹介、校内研修用ワークシート、さらに文部科学省の「働き方改革事例集」(先行事例)などを掲載しています。関係各課のページともリンクしていますので、学校での取組を検討する際にぜひご活用ください。



教職員一人ひとりが自らできる8行動

働き方改革を自分事と捉え、身近なところから、個人でできるものに取り組んでみましょう。そのヒントが働き方改革通信「マイレボ」の中にありますので参考にしてください。

多様な働き方の選択

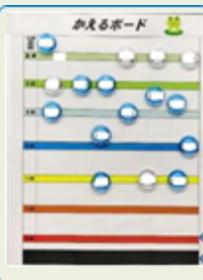
育児や介護、自身の健康問題などを抱える教職員が安心して働き続けられるよう、個々の事情やキャリア目標に応じて、時短勤務、フレックスタイム制、テレワークなど多様な働き方を選択できる体制を整えることで、教職員のモチベーションや仕事への熱意、満足度の向上につながります。

タイム（タスク）マネジメント

タイムマネジメントは、すなわちタスクマネジメントです。効率的に業務を遂行し、質の高い教育を維持するためには、業務の洗い出しや優先順位の明確化、時間配分の最適化、他者への委譲が重要です。これにより業務が精選され、精神的余裕が生まれ、自分のやりたい仕事に時間を割くことができます。

退勤時刻ボードの設置

No.107



出勤時に退勤予定時刻を示すマグネット「かえるボード」に各自の時刻を貼ることで、終業時刻を意識したメリハリのある働き方への変化が促され、互いに帰宅を促す雰囲気も生まれます。

ICTツールの効果的活用

No.80,127

校務DXとして、校務支援システムによる出欠管理や自動採点システム、クラウドサービスを活用した教職員間の情報共有、時間や場所にとらわれない会議などの取組が進められています。今後は、ICTツールを用いたデータ分析や、生成AIによる文書作成などを通じた事務処理の自動化が期待されます。

整理・整頓

No.103

勤務中に探し物に費やす時間は、年間でおよそ150時間、1日あたり約36分にも及ぶといわれています。机上の整理整頓やクラウド上のデータ保存ルールを定めることで、ムリ・ムダ・ムラを減らし、検索時間を短縮し、新しい発想を生み出すための創作時間を確保できます。

自己成長の時間の確保

No.126

教職員が自己成長を実感することで、仕事への熱意や誇りが高まり、質の高い教育の実現が期待されます。そのため、勤務時間を有効に活用し、継続的な学びの機会を設け、業務の裁量権を拡大するなど、教職員が成長できる環境を整えます。あわせて、働き方改革に関する研修機会の充実も必要です。

賢い休み方の工夫

No.137

賢く休暇を取得し、心身の健康を維持するため、長期休暇にまとめて取得したり、生徒がいない平日に計画的に取ったりすることは、業務効率の向上にもつながります。疲労の種類に応じた休み方を選ぶことが大切です。他の教職員の経験談を参考に、自分に合ったより良い休み方を見つけてましょう。

セルフメンタルヘルス

No.111,126,130

自らの心身の状態を把握し、ストレスの兆候に気づくためのストレスチェックや、適切な支援が受けられる相談窓口の設置、ストレスマネジメントやリラックス法を学ぶセルフケア研修などを通じたセルフケアが重要です。睡眠、食事、運動など、バランスの取れた生活習慣を心がけましょう。

学校における働き方改革は、組織と個人の両方で進められています。個人が取り組めることとしては、業務の見直しやICTツールの活用、ワークライフバランスを意識したプライベート時間の確保、そして自己成長のための時間の確保し、キャリアアップやスキルアップにつなげることが考えられます。こうした取組を通じて、自ら「働きやすさ」と「働きがい」のある職場をつくることができます。

新时代の教育を支える働き方改革通信

～My Revolution～

